

事例

「宮崎の豊かな食で育む「健康長寿日本一」を目指した食育・地産地消活動

みやざきの食と農を考える県民会議（宮崎県）

宮崎県では、県民の豊かな食生活を実現するため、平成13（2001）年に農林水産業に関する幅広い関係機関・団体が集い、「みやざきの食と農を考える県民会議」（以下「県民会議」という。）を設立しました。県民会議では、自然の恵みや生産者への感謝の心を育む「食育」と、宮崎県の豊かな食材を生かした「地産地消」の取組を行っており、毎月16日を「ひむか¹地産地消の日」と定め、家庭や学校、生産や流通の現場における地産地消及び食育の普及、定着に取り組んでいます。

県民会議では、平成18（2006）年度から、これらの活動に取り組んでもらう人（「食育ティーチャー」という。）を登録しており、現在、126人が登録されています。食育ティーチャーは、農業者や漁業者をはじめ、管理栄養士、食生活改善推進員、調理師、野菜ソムリエ、グリーンツーリズム実践者等、多彩な顔ぶれで、県内各地域で食育活動や地産地消の実践活動に取り組んでいます。

具体的な活動内容としては、子供たちを対象とした地元食材を活用した料理教室、子育て世代・高齢世代等ライフステージに応じた料理教室や若い世代への郷土料理教室等を行っており、近年は食品ロス削減に向けた料理教室にも取り組み始めています。

また、平成27（2015）年度から、県内の料理人等を講師として味の基本となる五味（甘味、酸味、塩味、苦味、うま味）について学び、味わうことの楽しみに触れる体験型学習「味覚の授業」に取り組んでおり、令和元（2019）年度は、県内小学校44校、1,927人の児童が授業を受けました。

さらに、直売所は、新鮮な農産物等を消費者が身近に購入できる地産地消推進の拠点としての重要な役割を果たしていることから、県内の農林水産物直売所の運営支援にも取り組んでいます。直売所アドバイザーを交えた店舗巡回で商品陳列や販促方法のアドバイスを行うとともに、テーマを設定した課題解決セミナーの開催等により、店舗の魅力を向上させるための後押しを行っています。



子供への地元食材を活用した料理教室



若い世代への郷土料理教室



「味覚の授業」



直売所課題解決セミナー

1 「みやざきの食と農を考える県民会議」では、毎月16日を、「1」ひ、「6」む、「日」か、「ひむか地産地消の日」とし、「地産地消」と「食育」を実践する日と定めている。